

果樹カメムシ情報第2号

平成24年5月17日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

チャバネアオカメムシのフェロモントラップにおける誘殺数が増加傾向
来週にかけて気温が高くなるため、果樹園への飛来に注意してください！

1 チャバネアオカメムシの発生状況

- (1) 今年の越冬成虫密度調査では、県内15地点の平均越冬成虫密度は0.80頭/m²で、果樹園に飛来の多かった平成16年、18年、20年並でした。
- (2) フェロモントラップにおける誘殺数は、豊田市猿投町で5月第2、第3半旬に増加しました(下図)。豊田市上郷町でも増加傾向ですが、その他の地点では現在までは少ない状況です。
- (3) 予察灯における誘殺数は、5月第2半旬に豊橋市で誘殺された1頭のみで、新城市ではまだ誘殺されていません。しかし、来週にかけて気温が平年より高くなると見込まれており、果樹園への飛来が増加する恐れがあります。
- (4) 現在、平坦部の果樹園においても飛来が確認され始めており、ウメ、モモの幼果への被害も見られています。今後、気温の上昇とともに活動がさらに活発になると、被害の拡大が懸念されます。

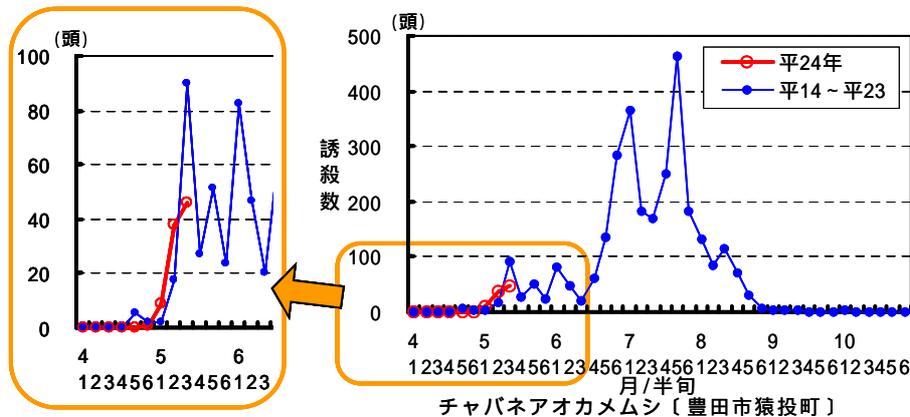


図 チャバネアオカメムシのフェロモントラップにおける誘殺数

2 防除対策

- (1) カメムシ類は、風がなく気温の高い夜に果樹園に飛来しやすいので、ほ場での成虫の飛来を確認しましょう。
- (2) カメムシ類は局地的に飛来し、集中的に加害する傾向があります。また、園地間差が大きいので、過去にカメムシ類の被害が多かった園では特に注意しましょう。
- (3) 越冬成虫密度が多い年は飛来が長期間続くので、飛来を確認したら、次表を参考に、残効の長いネオニコチノイド剤もしくは合成ピレスロイド剤を散布しましょう。
- (4) チャバネアオカメムシに果実を吸汁されると、小ウメや幼果期のモモは落果し、大粒種のウメや幼果期以降のモモでは吸汁痕が残ります。また、ナシやブドウでは、加害部が陥没し、品質が低下します。袋がけをする場合は、なるべく早く行いましょう。

表 カメムシ類に対する主な防除薬剤と使用基準

作物名	薬剤名	系統
ウメ	ダントツ水溶剤	ネオ
	スカウトフロアブル	ピレ
モモ	ダントツ水溶剤	ネオ
	アドマイヤー水和剤	ネオ
	アグロスリン水和剤	ピレ
	スタークル/アルバリン 顆粒水溶剤	ネオ
ナシ	ダントツ水溶剤	ネオ
	アドマイヤー水和剤	ネオ
	アグロスリン水和剤	ピレ
	スタークル/アルバリン 顆粒水溶剤	ネオ
ブドウ	スタークル/アルバリン 顆粒水溶剤	ネオ

注) 系統の「ネオ」はネオニコチノイド剤、「ピレ」は合成ピレスロイド剤であることを示す。